

守山企業景況調査報告書

(第 22 回)

平成 27 年 1 月～平成 27 年 3 月期 実 績

平成 27 年 4 月～平成 27 年 6 月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 27 年 1 月～平成 27 年 3 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	18	90.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	18	90.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	64	90.1%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 27 年 1 月～平成 27 年 3 月、見通しを平成 27 年 4 月～平成 27 年 4 月とし、調査時点は平成 27 年 4 月 30 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 27 年 1 月～3 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 27 年 1 月～3 月期の調査結果では、業況、売上高、採算、資金繰りの主要 4 指標全てで前回調査より数値が悪化した。

<業況>

業況 DI は▲30.2 で前回調査の▲21.0 から 9.2 ポイント悪化した。業種別では、小売業▲47.1（前回調査比▲27.1）、製造業▲45.5（前回調査比▲45.5）、建設業 9.1（前回調査比+19.1）、サービス業▲22.2（前回調査比+14.6）、卸売業▲50.0（前回調査比▲16.7）と製造業の落ち込みが目立つ結果になった。

4 月～6 月期見通しは全体で▲28.3 であり、数値に大きな変動は見られない。

<売上高>

売上高 DI は▲34.4 で前回調査より 6.7 ポイント悪化した。業種別では、小売業▲55.6（前回調査比▲8.5）、製造業▲36.4（前回調査比▲36.4）、建設業 9.1（前回調査比±0）、サービス業▲22.2（前回調査比+19.9）、卸売業▲83.3（前回調査比▲33.3）であり、製造業と卸売業の落ち込みが大きい。

4 月～6 月期見通しは全体で▲18.8 となっており、今回実績に比べて 15.6 ポイントの上昇となっている。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲35.5 で前回調査より 13.6 ポイント悪化した。業種別では、小売業▲44.4（前回調査比▲15.0）、製造業▲54.5（前回調査比▲46.2）、建設業 0.0（前回調査比+36.4）、サービス業▲29.4（前回調査比▲7.2）、卸売業▲60.0（前回調査比▲60.0）で製造業と卸売業の落ち込みが激しい。

4 月～6 月期見通しは全体で▲28.1 であり、今回調査実績より 7.4 ポイント上向いている。

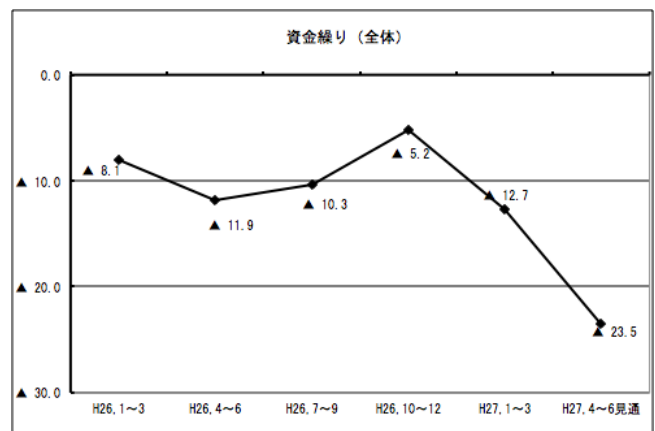
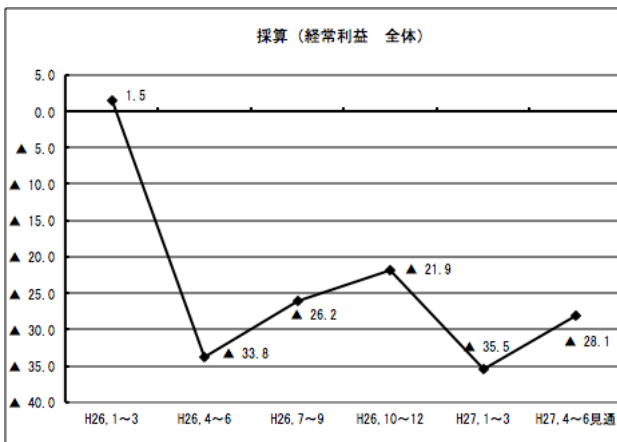
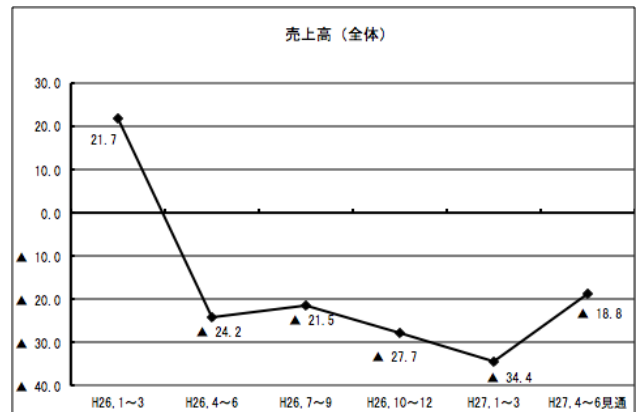
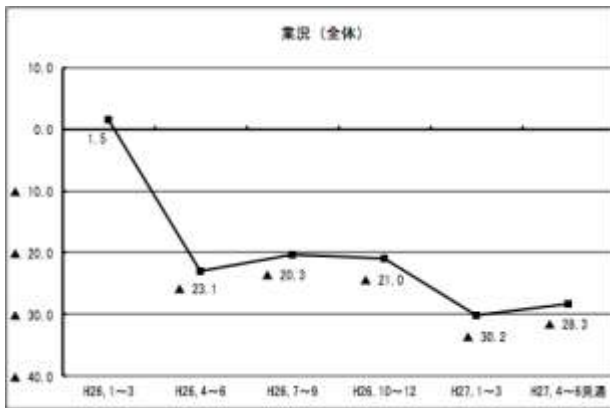
<資金繰り>

資金繰り DI は▲12.7 で前回調査より 7.5 ポイント悪化した。業種別では小売業▲12.5（前回調査比+6.3）、製造業▲33.3（前回調査比▲33.3）、建設業▲10.0（前回調査比▲10.0）、サービス業▲7.1（前回調査比▲7.1）、卸売業 0.0（前回調査比±0.0）であった。

4 月～6 月期見通しは全体で▲23.5 であり、今回調査実績より 10.8 ポイント悪化となっている。

<その他の意見>

- ・ 春先の商品仕入れ単価の上昇は異常である。
- ・ アベノミクス第3の矢次第で税金、年金、積立金が目減りするかと思うと将来少し心配である。
- ・ 中小零細企業は時流に合わせた経営をしてゆくしかないと思う。
- ・ アベノミクスが始まる前の方が良かった。



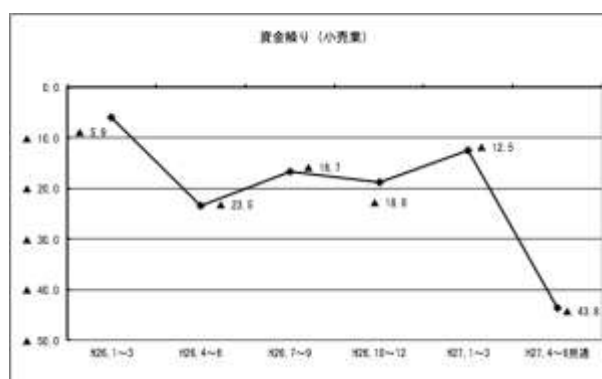
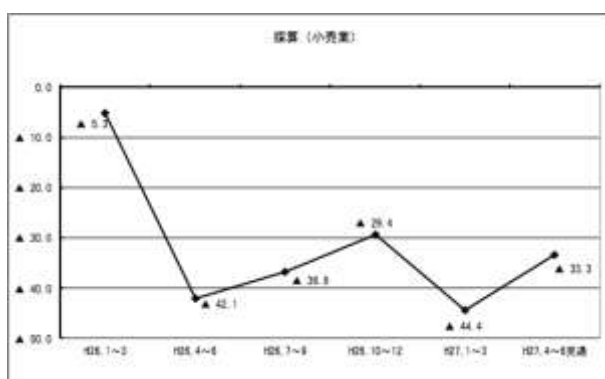
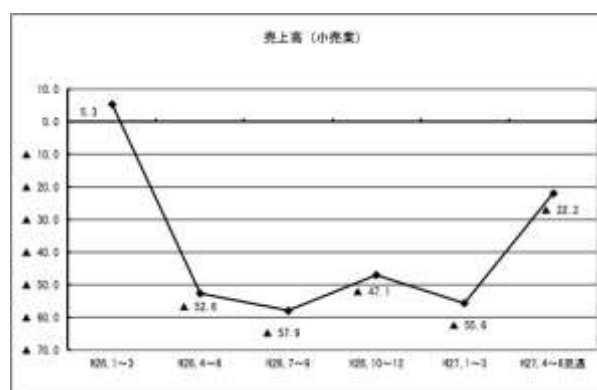
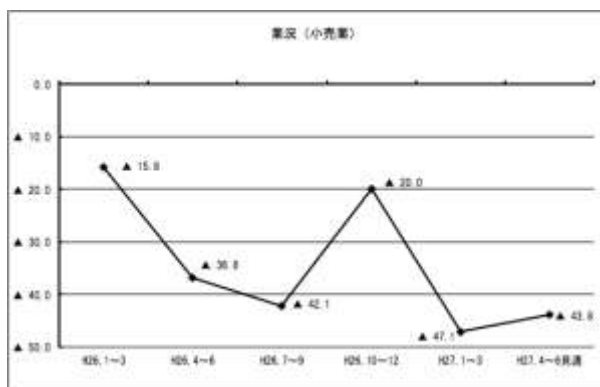
小売業

小売業の業況DIは▲47.1で前回調査より27.1ポイント悪化した。過去4四半期で見ると最低の数値であり、過去1年間の傾向は右肩下がりであり、前回調査の10月～12月期だけ数値が上昇している。4月～6月期見通しは▲43.8と少し数値の改善が見られるが大幅な改善は期待されていない。

売上高DIは▲55.6で前回調査より8.5ポイント悪化した。前回調査で数値が少し上向いたが今回調査で再び▲50を下回っており売上高の改善は見られない。4月～6月期見通しは▲22.2と大幅に改善しており、底打ちから回復への変化が期待されている。

採算DIは▲44.4と前回調査より15ポイント悪化した。前回調査と前々回調査で数値が上向いていたが、今回はその上向いた分以上に悪化している。4月～6月期見通しは、▲33.3で再び数値が上昇しているの、採算の悪化が一時的なものとして期待されているようである。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査より6.3ポイント上昇した。過去1年間の変動が大きい指標であるので、ここまでは安定しているようであるが、4月～6月期見通しでは▲43.8と大きく下落しており、資金繰り悪化の懸念がかなりあるように思われる結果となった。



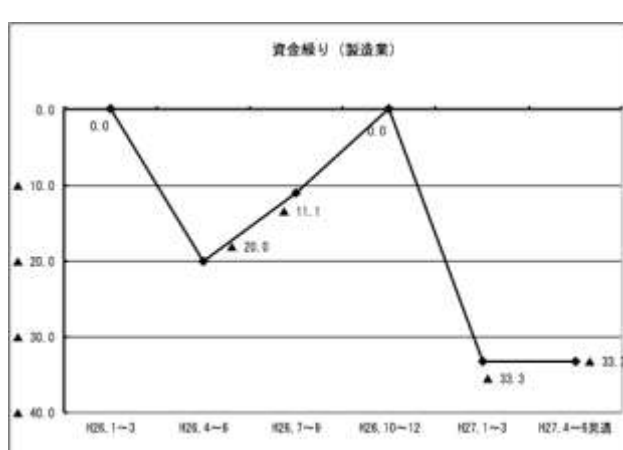
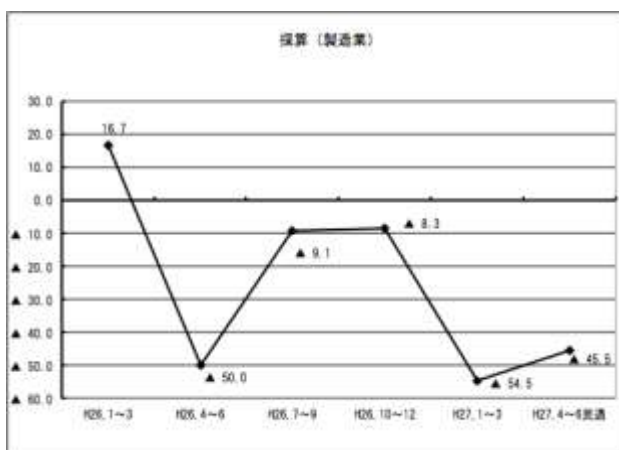
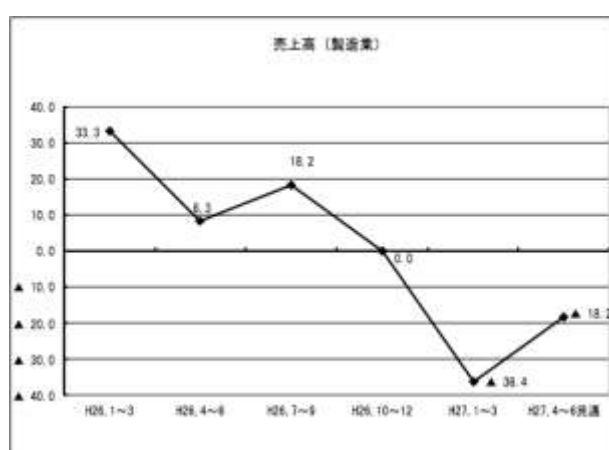
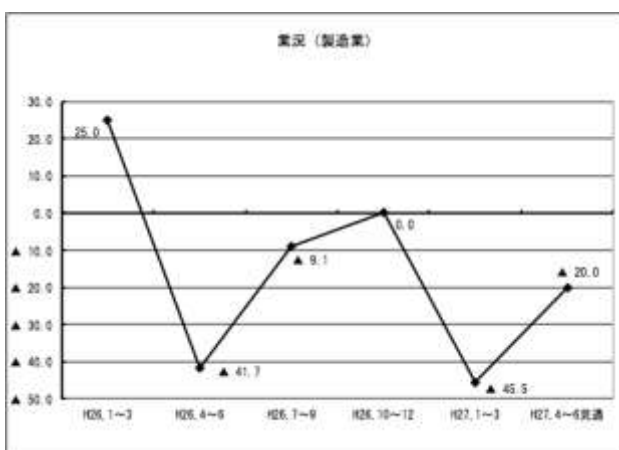
製造業

製造業の業況DIは▲45.5と前回調査に比べて45.5ポイントの非常に大きな落ち込みとなった。前回調査まで2四半期連続で数値が上昇していたが今回はその上昇分を越えるの悪化である。4月～6月期見通しは▲20.0と一気に回復が期待されている。

売上高DIは▲36.4で前回調査より36.4ポイント悪化した。過去1年は右肩下がり傾向が続いていたが、今回の調査では過去1年にない数値の落ち込みであり、マイナス数値になってしまった。4月～6月期見通しは▲18.2となっており、今回調査時点が落ち込みの底であることが期待されている。

採算DIは▲54.5で前回調査より46.2ポイント悪化した。業況、売上高と同じく今回調査の落ち込みが激しい。4月～6月期見通しも▲45.5で回復の見込みは立っていないようである。

資金繰りDIは▲33.3で前回調査より33.3ポイント悪化した。比較的安定した動きを見せていた資金繰りDIであるが、今回調査では落ち込みが大きい。4月～6月期見通しも▲33.3で資金繰りは改善見通しが立っていないようである。



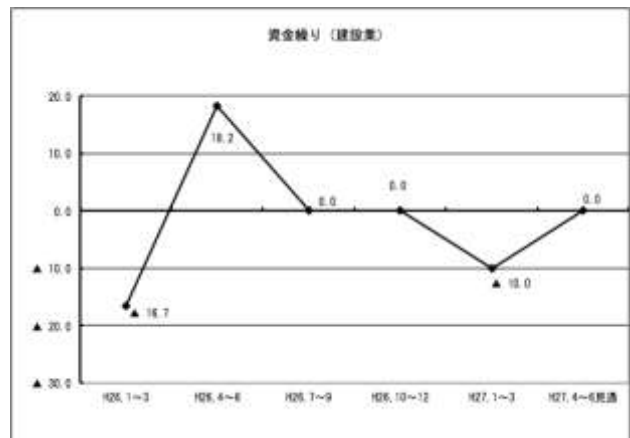
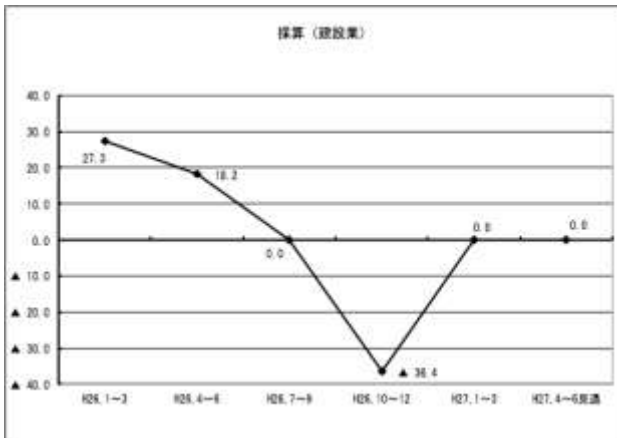
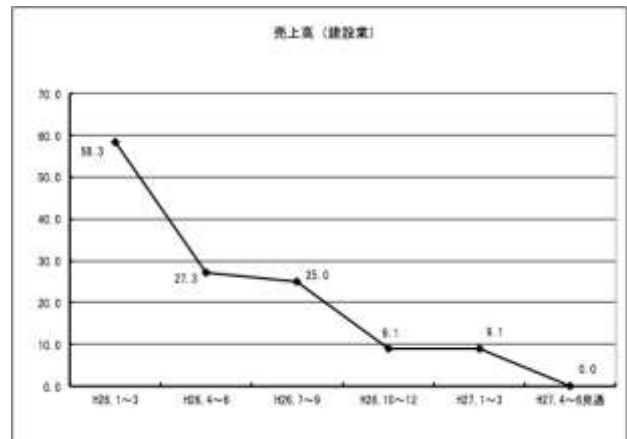
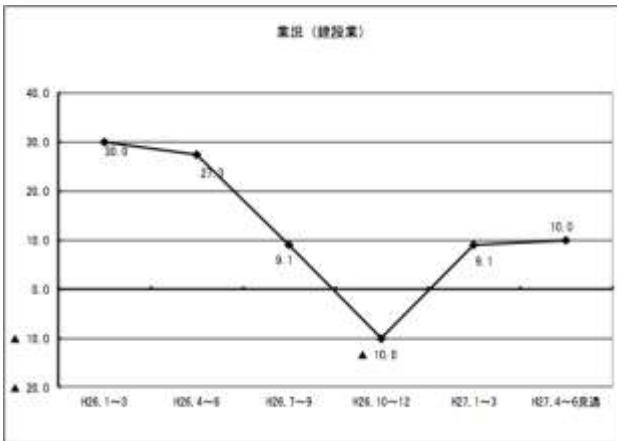
建設業

建設業の業況DIは9.1であり前回調査より19.1ポイント上昇した。前回調査まで数値の下落傾向が続いていたが、今回調査では上昇に転じており、数値もプラスになった。4月～6月期見通しも10.0であり、この調子で回復することが期待されている。

売上高DIは9.1で前回調査と同じ結果であった。過去1年の傾向としては、数値の下落傾向が続いていたが、今回調査で下落が止まった。しかし、4月～6月期見通しは0.0と下落が見込まれており、安心できない状況になるといえる。

採算DIは0.0で前回調査より36.4ポイント上昇した。前回調査で▲36.4と大きくマイナスに振れた数値が0.0まで回復している。4月～6月期見通しも0.0となっており、採算は安定してきているようである。

資金繰りDIは▲10.0で前回調査より10ポイント悪化した。資金繰りDIは大きな変化が見られにくい指標であり、安定的な動きを見せているとも言える。4月～6月期見通しは0.0で見通しとしても安定的な動きになっている。



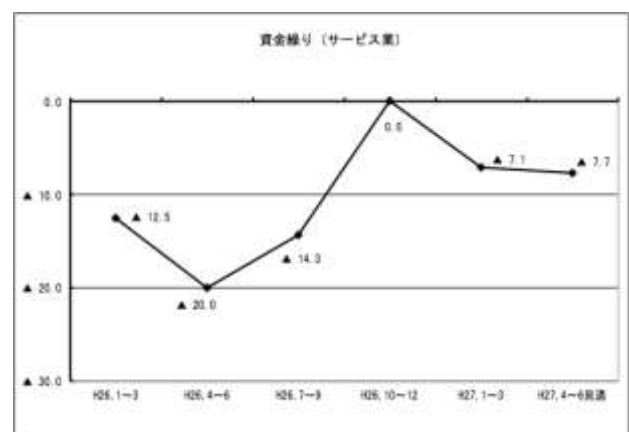
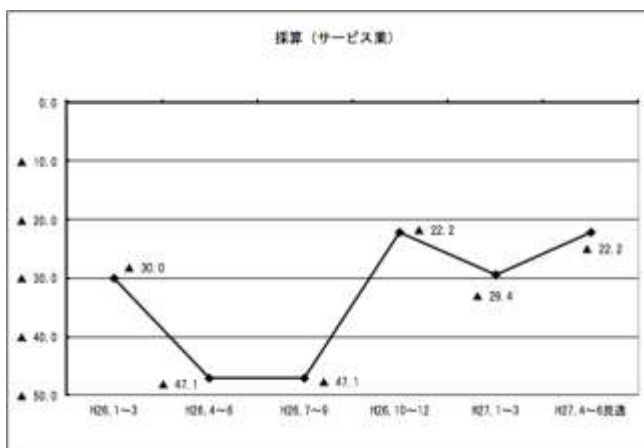
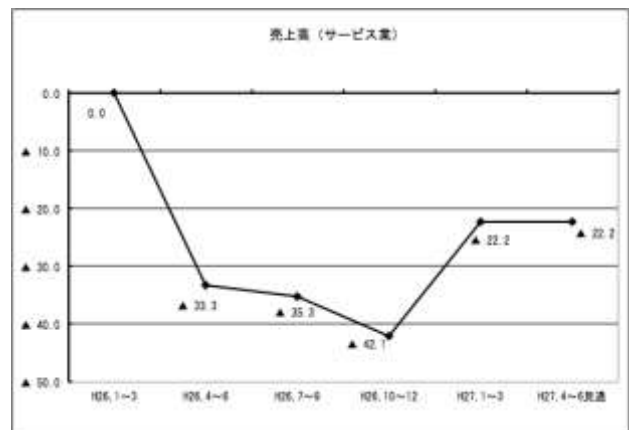
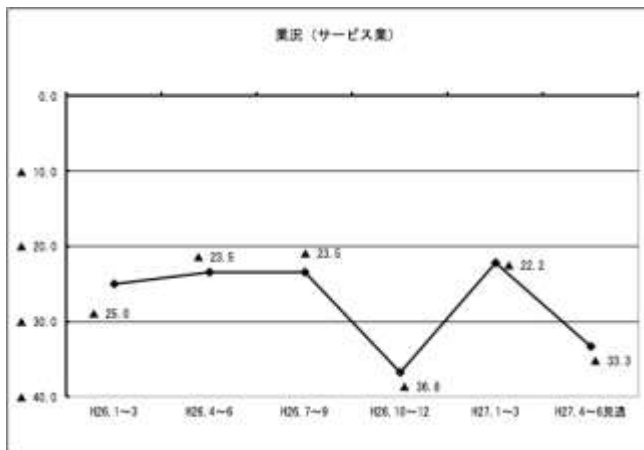
サービス業

サービス業の業況DIは▲22.2で前回調査より14.6ポイント改善した。過去1年の動きを見ると前回調査だけが▲36.8と目立って悪く、それ以外は▲22～▲25の数値となっており、低い数値ながら安定して推移している。4月～6月期見通しは▲33.3と今回調査実績より悪化の見通しである。

売上高DIは▲22.2で19.9ポイント改善した。過去1年を見ると前回調査時点が底であったようである。4月～6月期見通しも▲22.2となっており、売上高の悪化傾向は底打ちしたと期待されている。

採算DIは▲29.4と前回調査より7.2ポイント悪化した。前回調査時点で前々回調査に比べて24.9ポイント改善した数値をほぼそのまま維持している。4月～6月期見通しも▲22.2であるので、採算も安定的に推移すると期待されている。

資金繰りDIは▲7.1で前回調査より7.1ポイント悪化した。前回調査で0.0まで上昇した指数であるが、若干下振れしているようである。4月～6月期見通しも▲7.7で同じような資金繰り状況と見通されている。



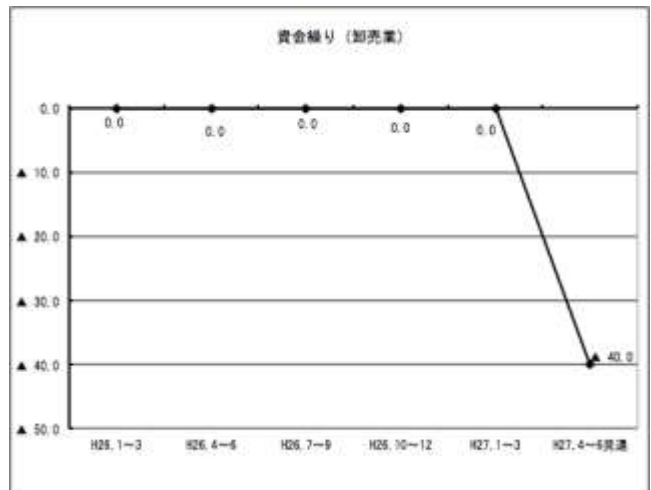
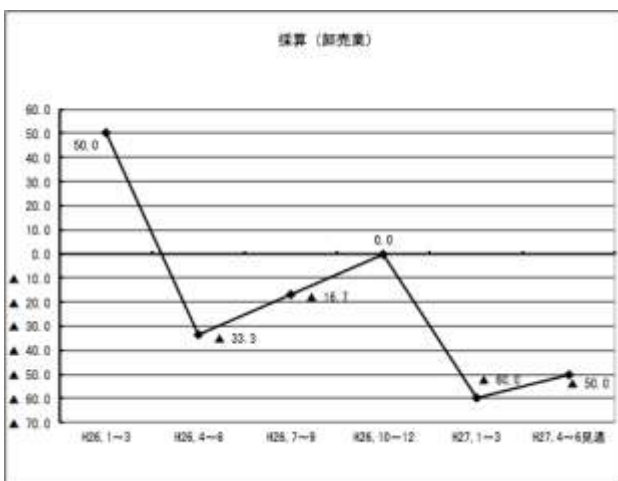
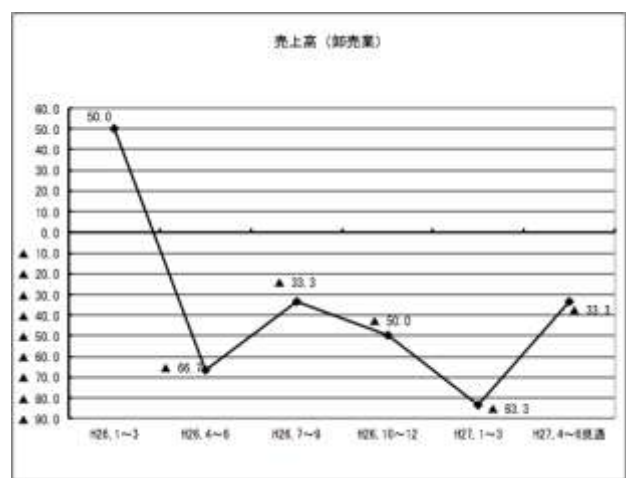
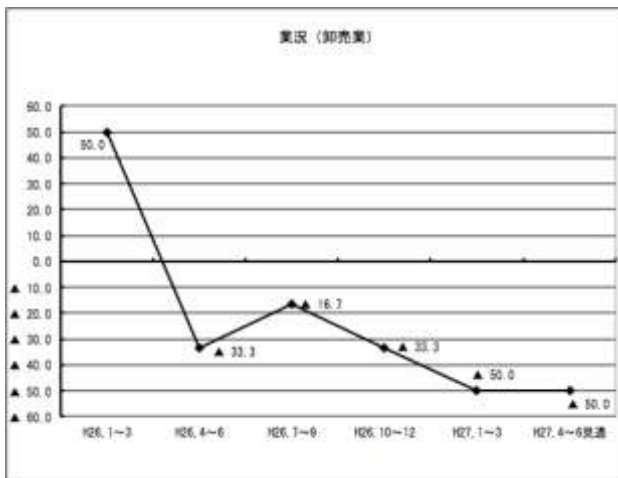
卸売業

卸売業の業況 DI は▲50.0 となり前回調査に比べて 16.7 ポイントの低下である。平成 26 年の同時期の数値と比べると 100 ポイント悪化した。2 四半期連続して低下している。4 月～6 月期も▲50.0 となっており、見通しは明るくない。

売上高 DI は▲83.3 と前回調査より 33.3 ポイント悪化した。売上高の低迷が続いているようである。4 月～6 月期は▲33.3 と 50 ポイント改善しているが数値としては決して高いものではなく、低迷状態はしばらく続きそうである。

採算 DI は▲60.0 で前回調査より 60 ポイント悪化した。前回調査まで 2 四半期連続で回復していた採算であるが今回は大幅に悪化した。4 月～6 月期見通しも▲50.0 で採算が良くなることは見えてこない。

資金繰り DI は 0.0 で 5 四半期連続で 0.0 であった。ここまで非常に安定している。しかし、4 月～6 月期見通しは▲40.0 と大きく落ち込んでおり、この先の資金繰りに大きな不安を抱えているものと思われる。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期 動向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	▲30.2	▲28.3	▲34.4	▲18.8	▲35.5	▲28.1
小売業	▲47.1	▲43.8	▲55.6	▲22.2	▲44.4	▲33.3
製造業	▲45.5	▲20.0	▲36.4	▲18.2	▲54.5	▲45.5
建設業	9.1	10.0	9.1	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲22.2	▲33.3	▲22.2	▲22.2	▲29.4	▲22.2
卸売業	▲50.0	▲50.0	▲83.3	▲33.3	▲60.0	▲50.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	8.1	▲11.3	▲29.0	▲32.8	▲6.6	▲9.8
小売業	0.0	▲17.6	▲37.5	▲31.3	▲13.3	▲20.0
製造業	36.4	0.0	▲18.2	▲9.1	0.0	▲18.2
建設業	18.2	0.0	▲9.1	▲27.3	0.0	▲9.1
サービス業	▲6.3	▲23.5	▲33.3	▲38.9	▲11.1	▲5.6
卸売業	0.0	0.0	▲50.0	▲16.7	0.0	16.7

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	▲12.7	▲23.5	6.4	6.3	6.5	4.3
小売業	▲12.5	▲43.8	0.0	0.0	12.5	0.0
製造業	▲33.3	▲33.3	22.2	22.2	22.2	22.2
建設業	▲10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲7.1	▲7.7	7.1	7.1	0.0	0.0
卸売業	0.0	▲40.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

